

ノ器械ヲ用ユト雖モ厚鋼ヲ寒折ニシテ多少ノ破損物ヲ生セサルハナシ寒折用器械ハ其所屬原理ニ於テ熱鋼ヲ屈折スル者ニ異ナルヲナシ即チ鑄鐵或ハ鑄鋼ノ長キロールヲシテ槓桿ノ一端ニ於テ自在ニ回轉セシムルニアリ唯其異ナル處ロハ熱鋼ニアツテハ人力ヲ使用スヘシト雖モ寒鋼ニアリテハ水壓力ヲ使用スルニアリ近來ノ試驗ニ依レハ寒折ノ損害ヲ減縮スヘキ一手段アリ即チ破壊スルニ非スシハ屈折シ難キ厚鋼モ之ヲ一度熱シテ徐々ニ冷却スルキハ能ク寒折ノ位度ヲ増大ニスヘシ例之ハ一時以上ノ厚鋼ハ嘗テ寒折九十度ニ達スル能ハスシテ先ツ破壊セシモ之ヲ前ノ如ク取扱フキハ同壓力ヲ使用スト雖モ能ク九十度以上ニ寒折スルヲ得タリ

以上ノ結果ヨリシテ之ヲ考フルニ厚鋼寒折ニ伴隨スル損害ハ能ク遠カラスシテ皆無トナルヘキハ疑ヲ容レス而シテ軟鋼寒折ノ發達ハ大ヒニ船舶製造費ヲ減少スルノ利益アルヲ以テ斯ノ如キ進歩ハ造船事業ノ爲メ甚タ冀望スヘキ事ナリ

(八月二日刊行エンシニア工學士富山象吉)

○オーストリヤ國山間鐵道

オーストリヤ政府ニテハ此度セラシボトモスターノ間ニ在ルアイバン山脈ヲ橫斷シアプト氏ノ意匠ニ係ハル (Aht's Rack Railway System) 齒車形ノ傾斜鐵道軌副廿五吋ナル者ヲ布設シハンガリー州ヨリアドリヤチツク海ニ出ル直接ノ搬路ヲ開カントテ既ニアプト氏ヲ拾三ヶ年招聘ノ契約ヲ成シタル由我國コトモ平地ノ鐵道ハ追々落成シ殆ント餘地ナキニ至ルニ付遠カラス種々ナル山間鐵道ノ必要ヲ感スルニ至ルベシ

○ロンドン土木工師會

ロンドン府土木工師會インスタンウシヨンオフシビルエンシヨ

ヤリノ會員ノ多數ハ土木工師ナレモ別派ノ學者工師ニシテ會員タルモノ頗ル多ク假令ハ機械學者ニアームストロング伯理學者ニ獨シ故クローシヤス及英ノサーウイェルリヤムトムソン鑛山學者ニ故パーシー博士ノ如キ凡ソ工學ノ何科タルヲ問ハス有名ノ工師學士ニシテ此名譽員或ハ會員タル者最モ多シ同會ニテ年々發兌スル會誌ニハ土木機械鑛山電氣等諸般ノ學科ニ付實業上最モ必要ノ論說報告ヲ編輯シアリテ工師必讀ノ良書ナリ本年三月ノ年報ヲ見ルニ各種ノ會員合計四千七百三十九人内名譽會員十九人正員一千六百五十七人通常會員貳千六百十三人准員四百五十人此外ニ學生ト稱スルモノ九百八十九人又昨冬半期ニ於テ集會ノ數二十五度演說拾四種ナリ又會計報告ヲ見ルニ前年度ノ會費及雜收入ハ合計金拾五萬二千三百四十八圓支出ハ金拾貳萬七千五百八十貳圓ニシテ差引積立金貳萬四千七百六十六圓而テ同會ノ總積立金ハ六十八萬六千三百〇一圓ナリ會堂ハロンドン市ウエストミニスタールニ在リ書房建物頗ル廣大ニシテ實ニ富有ノ學會ナリ

○築堤破壞ノ損害

先頃米國ペンシルハニヤ州シヨンスターウン町ノ近郷サウスフォーク

ニ在ル用水溜池ノ築堤土砂築造破壞シ是カ爲メ溺死或ハ壓死セシ者凡ソ壹萬五千人鐵道橋梁家屋其外地方人民ノ損害ハ政府特派委員ノ調査ニヨレハ金六百萬弗ナリト云フ

○フォース橋開通紀念博覽會

蘇國エヂンバラ市ノ西方八哩ニフォース江アリ此南畔ニア

ル古町ナクヒインスフヘリト云フ其東端ヨリ江ノ對岸ニ新架中ノ橋即チフォース橋ナリ是ハ鐵道復線ヲ渡ス者ニノ全長凡ソ一哩五十鎖中央ニ三個ノ大橋脚ヲ建テ其間各千七百十呎鐵道面ノ水面ヲ拔ク七百六十七呎橋脚ノ頂點ノ高サ三百六十餘呎世界中古今無比ノ大鋼鐵橋ニシ